（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスふれあい・庚午			
○保護者評価実施期間	令和６年　12月　16日	～	令和6年　12月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	18世帯（24名）	（回答者数）	12世帯（16名）
○従業者評価実施期間	令和７年　1月　6日	～	令和7年　1月　11日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　1月　22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもにより沿った支援 事前準備で不自由ない環境を提供するのではなく、子ども一人一人の課題を明確にして少し頑張れる環境を提供する。その為には、指導員としてどのように接したらその子の成長につながるのか意識して対応する。	・指導員のかかわり方や声掛けの工夫。 ・こどもの考える前にサポートに入らない事で子どもの力の底上げを図る。	・進学や進級、就職に向けての準備、体験などの支援 ・悩みや不安、相談を個別で話をできる環境を整える
2	・自分で気づき、成長できるような支援 すぐの気づきや成長ではないが、１年後・・２年後・・など将来を見越し、自分で考えて解決や答えを導き出せれるように支援できるように職員の共通認識で対応していく。	大人の力での抑止するのではなく、問題、課題に対して話をすることにより、こども自らで「感じる」「考える」を繰り返すを経験し、課題に対しての対応策を自分自身で見いだせれるように関わっていく。	・職員とパート間の意思統一の徹底 ・こども一人一人の情報共有の内容の密度、共通の支援方法の統一
3	・子どもと一緒に楽しむ 集団プログラムも子どもと一緒も指導員も楽しくをモットーに予定を検討する。	安全面を第一に考慮したうえで、様々な体験を通して経験を増やしていけれるようにプログラムを設定している。	・地域資源の活用と発掘

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材不足 ・基本人員、加算人員の確保はできているが、児童数に対して十分な配置が出来ていない	退社や産休などにより人材が減った。	求人を出している。
2	活動スペースが狭い ・部屋のスペースを整理して確保をしているが療育内容によっては狭さを感じることがある	3つの部屋があるが一つ一つのスペースは大きくない	・備品の整理や配置を変更しスペースを確保している。 ・療育内容によっては年齢や特性などでグループ分けをして部屋を分けて活動する。
3	保護者との関わりの密度が低い ・連絡帳やlineを活用しているが活かしきれていない。	・連絡のリアクションが遅い ・送迎時など不在の家庭が多く、直接の面談が難しい	・定期的に情報発信をおこない、支援内容や療育風景を見ていただく